

OLC オアシスライフ・ケア

私たちは、2011年3月11日の東日本大震災を期に
オアシスチャペル利府キリスト教会によって設立された非営利のボランティアグループです。

目次

<p>挨拶 オアシスライフ・ケアの代表である松田牧人牧師（利府キリスト教会）からの挨拶です。</p> <p style="text-align: right;">ページ 1</p>	<p>諸活動報告 私たちがこれまでにやってきた様々な活動を紹介いたします。</p> <p style="text-align: right;">ページ 2-3</p>	<p>会計報告 2011年3月11日から5月30日までの会計報告です。</p> <p style="text-align: right;">ページ 4</p>
---	--	--



挨拶

戦いは まだ続く

「ブ〜〜ン」と耳元で蚊の羽音が聴こえると気になって眠れなくなる…。そんな経験は誰にでもあるのではないのでしょうか。ほんの2〜3箇所刺されただけで、かなりイライラしてしまいます。しかし、被災地の避難所の中には、エアコンも扇風機もなく、網戸もない場所もあります。蚊はもちろんですし、大量発生しているハエにも悩まされている人々が大勢います。さらに暑さの問題があります。全国的に見ると東北には涼しいイメージもありますが、この原稿を書いている今日もかなりの暑さですし、昨日は石巻で猛暑日（35度以上）を記録しました。

このような状況下で、プライバシーがほぼ全くない体育館、公民館の廊下や玄



喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。 **ローマ12:15**

関ホールなどで既に4ヶ月以上生活をしている方々がいるのです。布団一枚がようやく敷けるような段ボールで作った“家”で生活する避難者の方の数は、現在約2万5千人とされています。仮設、自宅難民生活の中にも困難が山積です。テレビや新聞などで取り上げられる頻度はずっと少なくなりましたが、まだまだ悲惨な状況が多くあるのです。

そのような状況の中でも希望を持って戦っている人たちがいます。オアシスライフ・ケアが継続支援させていただいて

いる南三陸町のSさんご夫妻は、行政等の支援が十分に届かない個人の方々をきめ細かくケアし、支えています。ご自分たちも被災者であり、なさっている働きにも大変なご苦労があるでしょう。しかし、Sさんご夫妻はあきらめず、文句も言わず、日々誰かのための支援活動にいそしんでおられます。先ほど「お年寄りや障害者の方の二人暮らしの方が居て、その方々が○○○を必要としています」といった電話がかかってきました。神様がSさんご夫妻に目を留め、そのような慈しみの心を授けておられるのだと思います。今週もチームを派遣し、必要な物資と心をお届けしていきたいと思えます。戦いはまだまだ続いていますし、これからも続くでしょう。

みなさんの尊いご協力に感謝します。このような働きを息長く続けられるように、引き続きお祈りとご支援をよろしく願いいたします。

オアシスライフ・ケア代表 松田牧人



諸活動紹介

2011.06.12-07.15

被災地支援コンサート



沖縄から牧師たちのアカペラグループ「ボクシラーズ」が来訪されました。南三陸町、利府キリスト教会、シーサイドバイブルチャペル、東松島市で被災地支援コンサートを行いました。人々にとても喜ばれ、感動のあまり涙を流して聞き入る方もおられました。

「心の洗濯ができたよ！」とある方が笑顔で語ってくれたのがとても印象に残っています。

ボクシラーズのメンバーはコンサート活動に入る前に、被災した人々の実情を理解することから取り組み始めました。実際に甚大な被害を受けた南三陸町を訪問し、被災地の現実を自分の目で見、被災者の方々の生の声を自分の耳で聞きました。

メンバーは被災地の現状に驚愕し、心を痛めていました。あるメンバーはコンサート中、被災者の不自由な生活や苦しみを思い、ずっと涙を流しながら歌っていました。メンバーが被災者の生活や心を理解した上でコンサートを行ったからこそ、ボクシラーズの素晴らしい歌声は、人々の心に響き、感動を与えることができたのだと思います。

2011.06.07-09

特別集会「Pray for Miyagi」



東日本大震災からちょうど3ヶ月目にあたる6月11日に「Pray for Miyagi」と題して特別集会を開きました。開始時間の夜7時には会場いっぱい100名近くの方が会場のオアシスチャペル利府キリスト教会に集ってください、その中には支援のために東北以外の地域や海外から来られている方もおられました。

そこに集った私たちは被災地の人々のために心を合わせて祈り、また、「オアシスライフ・ケア」のこれまでの活動報告とビジョンについてもお話させていただきました。多くの方が深くうなずきながら話を聴いてください、当方のスタッフが語る被災者の方々のストーリーを聴きながら涙を流す方もおられました。あまりにも大きな被害を考えるときに、私たちは無力さを覚えずにはいられません。しかし、この小さな働きを大きなうねりにし、一人でも多くの方々の今日・明日・永遠のニーズに応えることをしていきたいと願っています。この思いに共鳴してくださる方が、すでにこれだけ多く与えられていることに感謝します。

2011.06.11

南三陸町への支援（3）



オアシスライフ・ケアでは震災以来、南三陸町のある集落に継続的に支援を続けていただいています。集落の人々からより細かいニーズを引き出すために、私たちは必要物資を想定してリストを作成しました。なぜなら、漠然と「何が必要ですか?」とお尋ねするよりも、より具体的で実際的な意見を聞くことができるからです。人々にリストを見てもらう中で「これは要らない」とリストから削除される物資もあれば、「これを加えて」と追加される物資もあります。私たちでは考えもつかない想定外の物資もあります。例えば、「サンダー」がその一つでした。海水につかり錆びてしまった家財のサビをとる為の機具です。他には、XXLサイズのTシャツも想定外でした。確かに支援物資にはなかなか無いサイズです。少量ではありますが、早速それらも調達し、届けました。

想定外の必要を知ることは、被災地の方々の生活や現状を少なからず想定することにつながります。その上で、今後もよりきめの細かい支援を展開していきたいと考えています。

2011.06

支援者のための慰労バーベキュー



行政や医療界では、被災者だけでなく救済スタッフのケアの必要性が叫ばれています。オアシスライフ・ケアでは、ホープみやぎやCRASH Japanなどの復興支援活動に従事している人々やその家族の方々を招いて、慰労バーベキューを行いました。

美味しい食事やゲーム、また同じ働きを進めている人たちとの交わりを楽しんでいただきました。少しの時間ではありましたが、毎日の過酷な労働を忘れ、精神的にも身体的にも回復する時間を提供することができたと思えます。参加した方々も、とても喜んでくださいました。

被災者だけでなく支援者も、災害ストレスを抱えています。いくら強いフィジカルやメンタルを持っていたとしても、彼らも人間です。高ストレス下の状況が長く続き、心や身体のケアを怠ると障害や病気を引き起こしかねません。しかし、被災地の現状を見、痛み悲しんだ人々を前にすると、情熱を燃やされ働き過ぎてしまいます。一定期間はそれでも持ちますが、それが続いていくといつかバーンアウトしてしまいます。支援者が長期的に働きを続けていくには、回復やケアのための時間や取り組みが必要です。休息や家庭、睡眠や趣味のための時間を取るよう本人も周りの人たちも注意するべきでしょう。

今回、このようなプログラムを行うことができましたが、今後も、自分たちや周りの人々が疲れ果て燃え尽きてしまわないように注意し、何らかの働きをしていきたいと思えます。それはこの度のような慰労企画だけに限らず、祈りや慰めの言葉かけといったもっと身近なものかもしれません。私たちの働きのためにも、祈りをもって支えてくださる皆様に心から感謝いたします。

2011.06.12

仮設住宅への支援



南三陸の支援窓口となってくださっている方（以下Sさん）から電話がありました。「至急、扇風機1台と掃除機1台が必要」とのことでした。仮設に入居されたばかりの高齢者で、自力での調達に困難な方の為にです。Sさんはそうした方の所に自ら赴き、話を伺い、必要を見つけ、私たちに連絡して下さるのです。早速物資を調達し届けました。私たちに代わって、目となり、耳となるSさんの協力あっての支援です。

また、先だって仙台市若林区の仮設住宅数箇所を回って来ました。集会所に民謡や笑い声も響く仮設もあれば、草が生い茂る公園に隣接する仮設もあり、入居率が低く人影も無い仮設もあります。それぞれ雰囲気の違いが際立っていました。後日、仮設入居者を対象とした無料の物資提供企画に協力させていただき、実際的な仮設間の違いを少しばかり知ることができました。

小規模な仮設への支援はまだ不十分です。この企画に訪れたのは、そのような小規模な仮設からの方が多かったです。中には「私たちの仮設は見放されたよう」と嘆く方もいらっしゃいました。「（必要なのに）500円の夏服を買うのもためらったの」との声もありました。大規模仮設への過剰供給の現実もありますが、未だ困窮している方が存在するの事実です。談話室すらない小規模仮設もあり、コミュニティ環境にも隔たりがあります。

少数が埋もれがちな現実がある以上、今後Sさんのような地道な働きの必要を益々感じます。私たちもまた、目となり耳となつて、見聞きしたことを活動レポートや当Webサイトなどを介してお伝えしていきたいと思えます。

2011.05.15

石巻市にある避難所への支援



震災後、被害が酷い沿岸部に幾度も行きました。その度に「世界が一変する」瞬間を体験します。今回、オアシスライフ・ケアの事務所がある利府町から約70km離れたある避難所（石巻市）へと向かった際も、それを体験しました。

車を走らせ、ダメージの大きい地域に近づいていくと、目の前が日常から非日常の空間にジャンプします。平坦な道はそこら中に亀裂がある凸凹道に変わります（時にはコンクリートごと津波で流されているところもある）。所々信号機は止まっていて炎天下の中で警察官が一日中誘導しています。気持ちいいはずの海風は思わず鼻をつまんでしまうほどの腐敗臭を運ぶ風に変わっています。避難所には、普段私たちが部屋に一匹でもいるとイライラしてしまうハエが何十、何百匹もいるのです。そのハエに、食事中も睡眠中も一日中悩まされます。3.11の震災から4ヶ月以上が経過しているにもかかわらず、未だに同じ日本とは思えないような世界が存在するのです。

「世界が一変する」瞬間を味わうと車内の会話は自然と止みます。皆、息を呑んで目の前の悲惨な光景をただじっと見つめるのです。しかし、この「世界が一変する」瞬間を味わってこそ、被災者を少しでも理解し、彼らに徐々に寄り添う支援が可能になるのだと思っています。

今回の支援では、CRASH Japanに協力していただき、アイロンや衣装ケース、掃除機などを必要な分だけお届けしました。今後は、物資的な支援も引き続き行い、サドルバック教会（米国カリフォルニア州）から来るチームと一緒に炊き出しを行う予定です。

2011.07.11

会計報告

オアシスライフ・ケアの働きは、多くの方々のご支援、ご協力によって成り立っています。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。この働きを長く、効果的に続けていくため、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

2011年3月11日～7月11日までの収支報告

	合計金額	科目
収入	¥4,996,988	献金、支援金
支出	¥2,274,608	被災地に届ける物資、機材・備品、ガソリン代、スタッフ人件費 他
残高	¥2,722,380	今後の働きのために繰り越し

上記の通り報告いたします。

2011年7月15日

支援金窓口

【三菱東京UFJ銀行】

支店名：仙台支店 口座番号：普通 0242364

口座名：オアシスライフ・ケア 代表 松田牧人

【ゆうちょ銀行】

・他金融機関より

店名：八一八（読みハチイチハチ） 口座番号：普通 4130375

口座名：オアシスライフ・ケア

・ゆうちょ銀行より

記号：18110 番号：41303751 口座名：オアシスライフ・ケア

関連情報

スタッフ

代表：松田牧人（オアシスチャペル利府キリスト教会 牧師）

スタッフ：菊地祥彦

スタッフ：國分圭介

スタッフ：郡山英明（CRASH Japan 仙台ベースに出向）

スタッフ：松田献（CRASH Japan 仙台ベースに出向）

スタッフ：三浦良太（CRASH Japan 仙台ベースに出向）

会計：渡辺綾子

連絡先

事務所：〒981-0104 宮城県宮城郡利府町中央2-5-1

(利府キリスト教会内)

TEL & FAX：022-356-2494 (利府キリスト教会)

E-mail：oasislifecare@gmail.com

賛同者

尾山清仁・キャシー（聖書キリスト教会東京教会・牧師）

加賀洋子（ASKアカデミー・ジャパン株式会社 CEO）

葛西浩二（有限会社テレビジョンワークス・代表取締役）

Kaz Kato（ミュージシャン）

郡山榮次郎（心療内科医）

篠田真宏（ゴールデンルールリミテッド・代表）

中村佐知（翻訳者／心理学者〈Ph.D.〉／JCFN理事）

藤原淳賀（聖学院大学総合研究所・教授／恵約宣教教会・牧師）

日野 哲（東北学院大学・総務部長）

松田和憲（関東学院大学工学部・教授／関東学院教会・牧師）

渡邊忠雄（元 東北大学大学院工学研究科・教授／

中国 <瀋陽> 東北大学・客員教授）

※50音順／敬称略／2011年7月15日現在

Webサイト

ウェブページ：<http://oasislifecare.org>

Facebookページ：<http://www.facebook.com/OasisLifeCARE>

Twitter：<http://twitter.com/#!/OasisLifeCARE>